

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
寺村安道			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
森 隆知		立命館大学 政策科学部 政策科学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域環境調査II	RMKd-180902-2	38人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

個々の学生が対象としたフィールドの地理情報・地域史・統計データ・報道記事などの諸情報を文献やWeb情報で把握した上で、類似した問題関心ごとにグループ分けを行い、グループディスカッションを通じて「自己の問題関心と今後の方針」を整理させた。その後、調査テーマ（観光・自然・高齢化・子育て・交通・生活環境・防災）に基づいて9つのワーキンググループを形成し、(1)調査計画の立案 (2)現地踏査 (3)ヒアリング調査 (4)対面アンケート調査 (5)調査データの整理分析 (6)グループ単位での発表と情報共有 (7)調査報告書作成の流れで学生はグループワークと調査・分析を行った。グループワークごとに活動報告書・ワークシートを担当学生が作成・提出し、個々の学生は毎回グループワーク報告書・フィールドワーク報告書作成・提出しながら本調査実習を進めてきた。学生は、いずれの過程においても主体的な役割を果たし、グループ内で積極的な議論を通じて、フィールドワークや調査票の作成や集められたデータの分析を行ってきた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

京都府乙訓郡大山崎町における住民生活に関わる諸問題についての全体調査

2. 調査の内容／概要：

本科目では、大山崎町の統計データ並びに過去の住民アンケートの内容と結果を参照しつつ、ヒアリング調査及び地域住民を対象とし、「観光・自然・高齢化・子育て・交通・生活環境・防災」の7つのテーマに関するアンケート調査を実施した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

ヒアリング調査は、行政機関・設定されたテーマに関連する機関（商工会など）並びに地域住民（子育て世代の住民・ボランティア活動に従事する住民など）を対象とした。アンケート調査は主に街頭で行い、駅・行政施設・商業施設周辺で行った（量的調査のサンプリングとしては問題があるが、不特定多数の住民の声を集める方法として唯一実施可能な方法であった）。

4. 主な調査項目：

回答者の基本情報（年齢層・性別・世帯構成・居住地域など）・観光施策や観光客に対する住民意識・ボランティア活動への参加状況・高齢者の日常生活や移動に関連する諸事項・子育て世代の保育所に対する意識・日常の住民の交流の状況・自主防災活動の状況と課題など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

行政の公開情報の収集・新聞記事の収集・訪問によるヒアリング調査・街頭アンケート調査。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

10/23 大山崎町を踏査(37名)・11/13 大山崎町で行政ヒアリング(31名) 11/13～12/18

大山崎町でヒアリング調査・街頭アンケート調査(グループごとに学内でのワークと調査を並行して行ったため一定せず、毎回5～30名程度で推移)

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

特に子育て世代に対するヒアリング調査の結果は質の高いものとなった。アンケート調査はグループごとに異なる調査票で行い、20～45件の回答を得た（街頭での対面調査のため、回答のすべてを有効とみなした）。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

オーソドックスに内容分析を行った。ヒアリングデータでは、各データの共通事項と相違事項の発見に注視し、アンケート調査ではクロス集計と分析を行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

町内の保育所をめぐる子育て世代の住民の意識の差、住民にとっての交流を促進する施設の必要性、防災施設に対する住民の認知の問題などが発見された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

報告書の刊行の予定はないが、調査協力者である大山崎町役場とは報告書の共有を図っている。